

令和2年6月つくば市教育委員会定例会会議録

1 会議日時

令和2年6月25日(木)

2 会議場所

庁舎2階 会議室203

3 出席委員

教育長 森田 充
委員 鈴木 理子
委員 小野村 哲
委員 柳瀬 敬
委員 倉田 廣之

4 欠席委員 なし

5 委員以外の出席者

教育局長	吉沼 正美	特別支援教育推進室長	土田 圭子
教育局次長	中山 隆	教育相談センター所長	横田 康浩
教育局次長	貝塚 厚	総合教育研究所所長	板谷 亜由美
学校教育審議監	根本 智	生涯学習推進課長	伊藤 直哉
教育総務課長	笹本 昌伸	文化財課長	石橋 充
学務課長	間中 和美	中央図書館長	柴原 徹
教育施設課長	飯泉 法男	中央図書館副館長	松浦 智恵子
健康教育課長	柳町 優子	企画監	澤頭 由紀子
学び推進課長	江尻 佳之		

6 議事

(1) 案 件

議案第36号 つくば市教育支援委員会委員の任免について
議案第37号 つくば市文化財保護審議会委員の任命について
議案第38号 つくば市図書館協議会委員の任命について
議案第39号 つくば市立小学校、中学校及び義務教育学校管理規則の一部を
改正する規則について

7 会議の概要

◎ 開 会

午後 2 時 00 分開会

教育長	<p>それでは、ただいまから令和 2 年の 6 月定例会を開催いたします。</p> <p>本日もお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>スムーズに進行していきたいと思いますので、御協力のほど、よろしくをお願いいたします。</p>
◎議事録の承認	
教育長	<p>初めに議事録の承認ですけれども、令和 2 年の 5 月定例会分、委員の皆様には事前に確認いただいておりますけれども、修正がないようでしたら、このとおり承認することとしたいと思います。よろしいでしょうか。</p>
委員一同	はい。
教育長	<p>では、承認といたします。</p> <p>今回の署名人は鈴木委員にお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。</p>
◎教育長の報告	
教育長	<p>それでは、次第の 3 番「教育長の報告」になります。</p> <p>先ほど、水環境保全活動の特別賞の受賞というペーパーをお渡ししましたが、この度、つくばスタイル科の「水とともに生きるヤゴ救出大作戦」が、公益社団法人日本水環境学会関東支部から水環境保全活動特別賞を受賞することができました。これは平成の 10 年ぐらいから続けていた事業ですので、長い間取り組んだことが認められたということで、大変嬉しく思っています。</p> <p>それから、コロナウイルス対策関係ですけれども、前にもお話しましたように、6 月 8 日から通常登校を開始して、その日に入園式、そして 6 月 13 日には入学式と啓志式を予定どおり実施しました。雨だったんですけれども、暑くなくて、上着を着ていた子どもたちにとっては、かえって良かったのかなと思います。写真を撮るのもスムーズにでき、保護者の方も大変喜んでいましたという御報告をいただいています。延期しての開催となりましたけれども、良かったと思っています。</p> <p>それから、夏季休業については、6 月 9 日に委員の皆様にお集まりいただいて協議をし、「8 月の 1 週目を休みにしてもいいんじゃないだろ</p>

<p>委員一同</p> <p>教育長</p>	<p>うか」、「子どもたちがつまずきの補充などに使えるような、そんな学習相談なんかもいいんじゃないか」という話合いもありましたので、校長会に、そういう話もありますと提案しました。校長会で相談したところ、ではそのような形にということで、15日の臨時校長会で皆さんが同意したところでございます。</p> <p>その臨時校長会においては、6月9日に話題になりました登校時の服装とか帽子とか日傘、あとは水の問題とか熱中症の話題を皆さんに投げたところ、各学校で対応したいということで、ここでは共通理解を得られました。その後、またいろいろと課題がありましたので、個別にまた対応しているところです。</p> <p>それから、今後のGIGAスクールの進め方についても話をしました。その中で、前にも話した、先行の700台については、今週から貸し出しを始めているということです。</p> <p>それから、その時に、医療相談アプリのLEBERの話も出ております。メールでもお話しましたがけれども、この臨時休業中の対応ということで、児童生徒、教員、それから保護者に対してのアンケートを実施いたしました。今、大体戻ってきているところですがけれども、今回の取組をしっかり評価して、今後の授業づくりに生かしましょうということと、それから、再度の休校があった場合に、その反省を生かすということで実施しています。</p> <p>児童生徒教員用は学び推進課で作って、そのまま通知しましたけれども、保護者宛てについては、私が研修でお世話になっているアイザックジャパンの方にも見ていただいて、そして、少し修正して実施しました。</p> <p>後ほど、結果について、まとまりましたらお返しさせていただきたいと思えます。また、対応については、この後、各課から「その他」の部分で報告させていただきたいと思えます。</p> <p>私の報告は以上でございます。</p> <p>それでは案件に入らせていただきます。</p> <p>本日は、(1)から(4)までの4件でございます。進め方として、(1)から(3)は人事案件ですので非公開とさせていただければと思いますがよろしいでしょうか。</p> <p>はい。</p> <p>それでは、最初に非公開案件、次に議案第39号と「その他」というこ</p>
------------------------	---

委員一同	とで進めさせていただきますけれども、そのように進めてよろしいでしょうか。
教育長	はい
事務局	では、そのようにさせていただきます。 傍聴の方はいらっしゃいませんか。
事務局	いません。
◎議案第 36 号 つくば市教育支援委員会委員の任免について	
教育長	それでは早速、議案の第 36 号から進めさせていただきます。特別支援教育推進室から説明をお願いします。
特別支援推進室長	議案第 36 号について、説明させていただきます。 (議案に対する説明)
教育長	ただいまの説明に質問、それから御意見ありましたら、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。 よろしいですか。 それでは、原案のとおり決定するということでもよろしいでしょうか。
委員一同	はい。
教育長	では、原案のとおりといたします。
◎議案第 37 号 つくば市文化財保護審議会委員の任命について	
教育長	続いて、議案の第 37 号です。文化財課、説明をお願いします。
文化財課長	議案第 37 号、つくば市文化財保護審議会委員の任命について説明いたします。 (議案に対する説明)
教育長	こちらについての御意見、御質問ありましたら、お願いしたいと思います。 よろしいですか。 では、原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

委員一同	はい
教育長	では、原案のとおりとさせていただきます。
◎議案第 38 号 つくば市図書館協議会委員の任命について	
教育長	次は、議案第 38 号についてです。これは中央図書館、説明をお願いします。
中央図書館長	議案第 38 号、つくば市図書館協議会委員の任命について説明いたします。 (議案に対する説明)
教育長	ただいまの説明に御質問、確認事項等ございましたら、お願いしたいと思えます。 よろしいですか。 では、原案のとおり決定としてよろしいでしょうか。
委員一同	はい。
教育長	では原案のとおりとさせていただきます。
◎議案第 39 号 つくば市立小学校、中学校及び義務教育学校管理規則の一部を改正する規則について	
教育長	続いて、議案第 39 号、ここから公開ということになりますが、外に傍聴人はいらっしゃらないですか。
事務局	いません。
教育長	それでは議案第 39 号に入りたいと思えます。これについては、教育総務課、説明をお願いいたします。
教育総務課長	議案の第 39 号つくば市立小学校、中学校及び義務教育学校管理規則の一部を改正する規則について説明いたします。 今回の改正点ですが、主に 3 つございます。 1 点目は、小中学校、義務教育学校の夏季休業日の変更になります。小・中学校、義務教育学校の夏季休業日については、規則により 7 月 21 日から 8 月 30 日までとなっておりますが、今年度に限って、コロナの影響を踏まえまして、夏季休業日を 8 月 1 日から 8 月 23 日までに変更する

	<p>ものがございます。</p> <p>2点目は、今後、学校単位で感染症等が発生し、臨時休業となった場合に、校長先生の判断で休業日を授業日とすることができるようにするものがございます。</p> <p>3点目は、幼稚園の夏季休業日になります。幼稚園の夏季休業日は、小・中学校の夏季休業日を準用するというようなことになっておりますが、今年度、幼稚園の夏季休業日については短縮せず、例年どおりとするために改正をさせていただきました。</p> <p>以上、よろしくお願いたします。</p>
教育長	<p>ただいまの説明に対しまして、御意見、確認事項ありましたら、お願いいたします。</p> <p>鈴木委員お願いします。</p>
鈴木委員	<p>2点目のところなんですけれども、つくば市内の学校で感染者が出た場合に、その学校だけが休校になって、その学校だけが特別、何か冬休みを縮めるとか、土曜日を登校日にするとか、そういう対応がなされるという理解でよろしいんですか。</p>
教育総務課長	<p>必ずしもそうなるというわけではございませんが、今のままですと、規則に基づいてしか休業日が決まっていますので、例えば、冬場にある程度の期間、臨時休業等が発生した場合に、それを補うために、春休みの一部を授業日にするというのを、規則の改正をせずに、校長先生と教育長の承認を得て、学校長ができるようにするものです。</p>
鈴木委員	<p>分かりました。</p>
教育長	<p>ほかにはよろしいでしょうか。</p> <p>ないようでしたら、原案のとおり決定としてよろしいですか。</p>
委員一同	<p>はい。</p>
教育長	<p>では、原案のとおりとさせていただきます。</p>
◎その他	

教育長	<p>それでは、本日の議案については以上でございますので、「その他」に入りたいと思います。では、委員さんから御提案をいただければと思いますが、いかがですか。</p> <p>小野村委員、お願いします。</p>
小野村委員	<p>私からは、6点伺いたいと思います。</p> <p>まず1点ですが、秀峰筑波義務教育学校、栗原小、それから栄小の3校が、豪雨時に浸水の可能性がある地域になっているかと思いますが、豪雨時の対応策を伺いたいと思います。特にこれらの3校はゲリラ豪雨などの場合には、保護者のお迎えを含めても、下校ができない。または困難になるということも考えられると思うんですが、なかなか難しい課題だと思いますが、現在の段階で、どのように考えていらっしゃるのか伺えればと思います。</p>
教育長	<p>これは、学び推進課長お願いします。</p>
学び推進課長	<p>今、小野村委員から御指摘があった点ですが、昨年度もお話が出て、前課長から、危機管理マニュアルに水害を入れるということで、お答えしたかと思います。学校にも確認をしまして、今年度危機管理マニュアルには、いくつかの想定で入れてあります。</p> <p>ただ、実際、先ほど小野村委員からあったように、判断がなかなか難しいというのは、私も見て感じたところです。できるだけ気象状況を見て、早く判断ということで、学校とは確認をいたしました。</p> <p>以上になります。</p>
教育長	<p>判断が難しいというのは、どんな点ですか。</p>
学び推進課長	<p>特に、朝なのですが、マニュアルでは、6時までにそのような被害が出そうな場合には、メールを通して自宅待機とするとなっています。</p> <p>あとは、学校に来てからですけれども、警報が発令された場合には午前11時までに判断をするんですが、給食もありますので、配膳車が来ていれば、給食をとって、すぐ下校。来ていなければ、給食をとらないで下校と、いくつかパターンは想定をしているんですけれども、その時の雨の量とか、増水の具合とかによって、マニュアルどおりではなくて、柔軟に対応していく必要があると思います。</p>

教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>いかがでしょうか。</p> <p>何か今の件について、ほかに御意見ある方いらっしゃいますか。</p>
柳瀬委員	<p>下校の仕方ですね。例えば、秀峰だと、人数とそれから車が殺到した場合、かなり混乱することが想定されるんですけども、小野村委員、そういうことも聞かれたんですね。具体的に学校でいろいろと考えてはいると思うんですが、想像するに、かなり難しいんじゃないかと思います。</p> <p>雨が降っても、今でも送り迎えでかなり混乱していると。それが豪雨の時にどうなるかというのは、非常に心配ですね。</p> <p>それから、巡見橋がもし通れない場合、むしろ学校の2階、3階に退避なんてことも、恐らくあると思うんですが、その辺、細かく作っていますかね。</p>
学び推進課長	<p>車の迎えについても、学校は想定しているんですが、実際にどの程度車で来る方がいるのかとか、今度引き渡し訓練の時に、実際に車を乗り入れてやってみるのも、1つの方法なのかなと思っています。</p> <p>それから、川が決壊したり、急な増水の場合には、危機管理マニュアルでも、引き渡しではなく、学校の上の階の安全な場所に避難という記載がされています。そこら辺、どのレベルで引き渡しが可能なのかというのは、それぞれの学校ごとにまた条件は違ってくると思うんですけども、一応、マニュアルではそういう形で、今年度設定いたしました。</p>
教育長	<p>引き渡し訓練は、1年目にだいぶ混乱して、混雑したということで、去年は方法を工夫してやったら、だいぶ混雑については解消できたという報告はいただいているんですけども、これは次長、何か聞いていますか。</p>
教育局次長	<p>私も詳しくは、今、失念してしまったんですけども、1年目が混乱してしまったので、やり方を改善して、だいぶ緩和されたということと、改善では、学校防災でお世話になっている、国総研の長屋先生にも実際に入ってもらって、その専門家の目を見て、どういう形でやると円滑に引き渡しができるのかというアドバイスを受けてやったというところで、詳細については、次回、またお知らせできればと思っております。</p>

教育長	ありがとうございます。
小野村委員	よろしいですか。
教育長	はい。
小野村委員	<p>3.11の震災の後に、東松島市の野蒜小学校でのお話を伺ってきたんですが、野蒜小学校の場合も、お迎えに行った人が被害に遭われているんです。家に戻った方は大丈夫だったんだけど、そのまま行ってしまった方が、車ごとさらわれてしまったケースもあったようです。</p> <p>帰すことが最優先にならないように、配慮いただければと思います。</p> <p>また、最悪の場合には、巡見橋が渡れなければ、旧西中学校区の子どもたちは、一晩ぐらい泊まるという可能性もなきにしもあらずだと思いますので、そういった場合、食料をどうするのか、秋から冬にかけて、寒さが予想されれば、暖はどのように取るのかとか、そういったことまで、御検討いただければと思います。</p> <p>それに関連して2つ目に行ってよろしいですか。</p>
教育長	はい、お願いします。
小野村委員	<p>2つ目は、携帯電話についてです。</p> <p>先日、文部科学省から、携帯電話の学校への持込みを認める旨発表されたと思います。市内の学校ではすでに認めているということなんですが、保護者の中には「校則として持込み不可となっているので、持って行ってはいけないと思っています」という方もいらっしゃるようです。その辺りは、今、各学校どのような状態になっておりますでしょうか。</p>
教育長	学び推進課長、お願いします。
学び推進課長	携帯電話の持込みに関しては、中学校は許可制ということで、今年からではなく、だいぶ以前からやっております。もしかすると、まだまだその周知が保護者の方に足りなかった部分があるのかもしれないんですけども、安全に関する部分でどうしても1人になってしまう生徒、それから、学校から直接塾へ行って、そのお迎え等、どうしても安全上必要になる、そういう理由が明確であれば、学校で許可をしてという形で

<p>小野村委員</p>	<p>行っています。</p> <p>義務教育学校に関しましては、後期課程だけそれを認めるというのも、なかなか難しいので、前期課程の児童に関しても、同じような対応を取らせていただいています。</p> <p>分かりました。</p> <p>私は地元が秀峰で、この間も秀峰の登下校の様子を見ていたんですが、りんりんロードを通る子は、筑波山の、旧筑波駅を出てしまうと、その後しばらく、北条坂下へ来るまで全く民家がなくて、小田地区の子どもたちも、あの地区を出ると、もう何もないという状態です。</p> <p>昨日、草刈りが入っていましたが、あの草に不審者などが隠れていると、助けを求めても聞こえない、ブザーを鳴らしても聞こえないなという状況が見られました。</p> <p>更に加えて心配なのが、中菅間地区の子どもたちが、125号線が新しくできた部分がありますよね。あそこが全く民家も何もなく、交通量がある分だけ、逆に安心なのかなとも思って見ていましたが、ただ、どちらか、雷とかが来た場合には、よほど気を付けて下校させないと、かえって、急いで下校しなさいって言ったために一番盛んな時期にあそこを通らなければいけないとか…。その場合、避難する場所もないということで、携帯を持たせるということも1つの解決策ではあるんですけども、それだけではなくて、何らかの方策を考えないと、あそこを通る子どもたちはかなり危険ではないかなと感じておりました。</p> <p>じゃあどうしろと言われても、私もどうしたものかなと思って見ていたんですが、1つは簡単な避難小屋みたいなものがあったらいいのかなとは思っていたんですが、逆に避難小屋を作ると、そこに不審者が隠れていてもしょうがないなという気がします。専門家の御意見、御助言などいただくこともお考えいただきたいと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>これについては、今後、学校と詰めて考えていきましょう。</p> <p>では、3つ目をお願いします。</p>
<p>小野村委員</p>	<p>3つ目はヘルメットなんですが、これも地域の方からのお話がありまして、今、子どもたちはほとんどがマスクをして登下校しています。それで、ヘルメットをかぶってマスクをしてということになると、かなり暑いということで、熱中症対策という意味でも、もう少し軽い、通気性のあるスポーツタイプのものは使用してはいけないのですかという声か</p>

教育長	<p>ありました。</p> <p>このヘルメットに関しては、前からも何度か、私からも、柳瀬委員からもお話があったと思うんですけれども、ぜひ検討していただければと思います。3番目は以上です。</p> <p>学務課長、お願いします。</p>
学務課長	<p>学務課です。以前からそういうお話はいただいていたところがございます。現状を申し上げますと、市内の学校に2つのメーカーのものが入っています。</p> <p>まず1つ目が、従来からあるような一般的なものと、それと、もう片方は、少しスポーティーな感じというんでしょうか、2種類のヘルメットが入っているという状況です。今、委員さんからお話があったように、例えば、少し穴が空いているようなタイプのものも、ないわけではないんですけれども、なかなか雨の日に雨が入ってしまうであるとか、また、今の時期であれば涼しいかもしれませんが、逆に冬の時期だと寒いとか、いろんなことがあるものですから、そういう意味合いも含めて、今、一番安心、安全と思われるヘルメットを採用させていただいているというのが現状でございます。</p> <p>一応、今の状況だけでも、お伝えさせていただきました。</p>
教育長	<p>調べてみたら、スポーツタイプだと、雨の日にカバーをかけなければいけないということで、そのカバーだけでも、1,800円とか2,000円するという事も聞きまして、結構経済負担も大変かなと思いました。</p>
学務課長	<p>違うものでは駄目かというお話があったかと思うんですけれども、市で児童自転車用ヘルメット購入補助金の交付ということをやっております。現在、予算の範囲の交付ということで、購入金額の2分の1、上限が2,000円というところのようで、今年度からなんですけれども、現在、全体の申込みが127件で、そのうち中学生が申し込んだというのが10件あるという情報を頂いております。もしかしたら、こういうものも御利用いただけるんじゃないかと考えているところです。</p>
教育長	<p>この補助事業の担当課は、何課ですか。</p>

学務課長	総合交通政策課です。
教育長	ほかにありますか。 鈴木委員お願いします。
鈴木委員	学校指定のものを必ずかぶらなくちゃいけないという決まりは、ないんですか。そこら辺はどうなんですか。
学務課長	学校長の許可をいただければ、学校の判断でということで、やらせていただいていると思います。
鈴木委員	ということは、校長先生が駄目って言えば、駄目なんですか。
学務課長	学校にお任せしているのです。
鈴木委員	せっかく先ほど申込みが何件あったというお話がありましたけれども、まず、その周知が少し足りないかなということと、子どもたちも保護者も、指定のものをかぶらなくてはいけないと思い込んでいると思うので、そこら辺、もうちょっと柔軟にお知らせしていただきたいのと、雨天時カバーをかけてもいいから、穴が空いたスポーティーなのをかぶりたいという子には、かぶらせてあげる方が、私はいいのではないかと思います。
教育長	学務課長お願いします。
学務課長	その辺についても、校長判断ということになるかと思います。周知については、学務課としては、一応全校に、2種類のヘルメットということでやらせていただいていますので、あとは総合交通政策課で、この補助金関係のPRはされていると思いますので、そちらに情報としてお話ししておきたいと思います。
教育長	今の件、校長の理解もしっかりしないといけないので、もう一回校長にも話をして、検討させていただきたいと思います。 では、続いてよろしいですか。
小野村委員	この後の暑さ対策なども見ながら、よろしく願いいたします。

	<p>それとも関連して、分散登校から学校が始まって、マスコミなどでは子どもたちが「友達に会えて嬉しいです」と言うところだけ取上げられていたんですが、その反面で、私も今、自分自身が行っている活動を通じて、行きしぶりというような声、実際に相談が市内だけではないんですが、随分あります。</p> <p>それから、学校教員では聞かないんですけども、介護施設では、職員が不安を感じていて、退職希望が増えていて、人員欠員が生じてしまっているという話も聞いております。先生方もこの暑い中で、地域によってはマスクをやって、シールドをやって授業をなささいという指導を受けて、先生が熱中症で倒れてしまったなんていう話も、ちらほら聞いております。今、学校の中が、どんな状態なのか、先生方からどんな声が、また子どもたちからどんな声が上がっているのか、少し共有させていただければと思います。</p>
教育長	<p>私も、通常登校になってから学校に何回か行ったんですけど、エアコンをつけて、窓を開けて、換気もしながら授業をして、この暑さだったので、そんなにはひどくはないというところだったんですけども、消毒をするのが大変だというのが、先生たちの声です。消毒を子どもが帰った後、全部まめにやらなければいけないので、そういう時間が、先生たちにとっては大変だということは聞いています。</p> <p>何とかしたいとは思っていて、保護者のボランティアという声もあったんですけども、消毒をするのが、危険がないわけでもないのに、そういうのにボランティアを使うのも心配なところもあります。かと言って、人員を雇うのも大変だというのがありました。</p> <p>何か委員の皆さんで、こんなのはどうかというのはありますでしょうか。それから、こういうところを心配しているとかでも結構ですので。柳瀬委員、お願いします。</p>
柳瀬委員	<p>先月の定例教育委員会で、その消毒、3種類ということを確認しましたが、結局、次亜塩素酸水がコロナには有効ではないということに、あの後、文科省でもなったわけですね。そうすると、アルコールか次亜塩素酸ナトリウムかどっちかということですね。アルコールが十分、行き届いていれば、アルコールでできるんですが、次亜塩素酸ナトリウムになると、手袋をして、直接触れないようにしなくてははいけない。なおかつ、噴霧したらそれを後で拭き取らないといけないと。福祉施設などでも、相当それに職員の労力をかけているんですけど、学校は、アル</p>

	<p>コールですか、次亜塩素酸ナトリウムですか。また、アルコールは十分ありますか。</p>
教育長	<p>健康教育課お願いします。</p>
健康教育課長	<p>アルコールですが、手指用のものにつきましては、1日1回必ず、児童生徒が使える分のもは供給しております。</p> <p>ただ、ドアノブを拭いたり、そういったものについては、寄附で頂いたもの等で対応しているので、全ての学校で十分に全て拭けるかという部分については不足している状態であります。</p> <p>なので、そういった部分については、次亜塩素酸ナトリウムなどをお使いくださいということで、お願いはしているところでございます。</p>
教育長	<p>ほかに何かございますか。</p> <p>鈴木委員お願いします。</p>
鈴木委員	<p>先生方の雑務の軽減ということで、私もメールに書きました。以前、学校にエアコンを設置する時にもお話をしたんですけれども、コピー機のようにリースだと、メンテナンスまで含んでやってくれると思うんですが、エアコンのリースはできないと。買わないと補助金が出ないということでお伺いしました。エアコンのフィルターの掃除なんかも、先生方をお願いしてやっていただいていると思うんですが、例えば、その辺りも、先生方に申し訳ないというか、「先生は忙しいのにエアコンのフィルターまで掃除をするんですね」という話を、学校訪問に行くとするんです。何かまとめて業者に頼んでやれるようなことは、今年の夏だけでもいいのでできないですか。予算上難しいですか。</p>
教育長	<p>教育施設課長、お願いします。</p>
教育施設課長	<p>フィルターの掃除について、業者委託ですとか、そういうのについて、まだ検討には至ってはいないところです。</p>
鈴木委員	<p>フィルターの掃除というか、エアコンは放っておくと不潔になってしまうので。今年ガンガン使うと思うので、中まで掃除するほうがいいですよ。フィルターだけじゃなくて、奥まで掃除するのは、まとめて安くしてもらって、業者に頼むぐらいのことをやらないと、カビ発生機に</p>

	<p>なってしまうのかなとも思いますけれども、今でなくてもいいですから検討していただきたいです。</p>
教育施設課長	<p>そういうメンテナンスにつきましても、まずは局内で検討させていただければと思います。</p>
倉田委員	<p>学校側で一番大変なのは、不特定多数の子どもたちが同じものを使う、トイレの便器や取っ手、あとは子どもたちが同時に触るものを毎回掃除して、消毒することだと息子から聞いています。それが一番職員には負担になっているようです。しかし、それはどうしようもないんですよ。対策と言っても、その都度やらざるを得ないので、だから、これのいい方法というのは、なかなか見つからないのが現実なのかなと思います。まめに意識して、子どもたちにも投げかけて、そういうことに注意を払って、自分たちも意識してやるような習慣をつけないと、なかなか難しいのかなと思います。</p>
教育長	<p>小野村委員お願いします。</p>
小野村委員	<p>今日、来る前に、私の銀行口座にも 10 万円が振り込まれているのを確認したんですが、そういった、実際に現金を出して人々の暮らしを支えるというのはもちろん大事で、そこにお金を出すことは、とても大事なことだと思うんですが、それと同時に、先生方が健康を損なったりしないようにするためには、今のような、そうでなくても大変な状態で、エアコンを毎日回しているとなったら、このエアコンの管理は絶対お金を入れなければいけないところだと思うんです。それは、盲点ではないかなと思っていて、私たちに 10 万円配ってくれるのも大事だけれども、それと同時に、各教室のエアコンのメンテナンスにも、ちゃんと予算を割くということを、ぜひ検討していただければと思います。</p> <p>小耳に挟んだのですが、県内でコロナ休校期間中に、植樹の伐採をしていて、はしごから落ちて亡くなった方がいらっしゃいますよね。そういうことがあってはいけないと思うんです。休業期間中に植樹の手入れをしようなんていう先生は、本当にいい先生だと思います。そういう先生が亡くなっている。本来の業務ではなくて、怪我だけではなくて、命まで落とされているということを考えると、そういうところにはしっかりお金を注ぎ込まないといけないところだと思うので、これは市だけの問題ではないと思いますが、訴えていく必要があるのかなと思います。</p>

<p>教育長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>校長先生が亡くなってしまったということなので、非常に残念な話だったんですけども、本当に予算を獲得するのは必要だと思います。なかなかその予算もないというのが現状でして、これからもできるだけ必要性を伝えていきたいと思います。私たちだけでは、なかなか難しいので、全体の声にならないといけない部分でもあると思います。これから何が本当に必要なのか、みんなで考えて、学校も含めて声にしていくことも必要なのかと思いますので、また御協力をよろしくお願いします。</p> <p>では、ほかにありましたらお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、小野村委員お願いします。</p>
<p>小野村委員</p>	<p>それと関連して5番目ですが、今、教育長からもお話があったように、私自身も、エアコンのメンテナンスということは頭にありませんでした。こうやって話合っていく中で、何が必要かという盲点が、出てくると思います。</p> <p>そういう意味でも、立場の違う人と話合うことは、とても大事なことだと思っていて、何らかの形で、教育長もこの間おっしゃったと思いますが、まず子どもたちの声を聞く機会。私たちも教育委員をやっていて、子どもたちの意見を聞く機会って本当にないので、子どもたちの声、それから、校長先生だけではなく、現場の先生方の声を聞く機会、それから、保護者の皆さん、地域の皆さん、いろいろな方の声を聞く機会があると、そこからまた、新しいものも生まれてくると思います。</p> <p>先回、お話したかどうか記憶が定かではありませんが、全国的に見ると、例えば、IT環境で、各家庭に導入した時のセットアップをおやじの会の詳しい方々がサポートして回っているとか、いろいろな事例があって、そういったいい点を、つくばでもぜひできればと思います。そういう意味では、タウンミーティングという言葉を使うとあれですが、これからの学校の在り方、これからの学びを考える集いとでもして、全員、どこかで集まってということは難しいと思いますが、Web会議なども利用しながら、子どもたちや、みんなの声を聞く機会が持てればと思います。</p> <p>教育委員会は、定員の3分の1の教育委員の声があれば開くということだったと思うんですけども、先ほどのように予算のことともなると総合教育会議を開くべきかとも思います。これはどういう形で開くの</p>

	<p>か、規約がよく理解できなかつたんですが、総合の開会も含めて御検討いただければと思っています。</p>
教育長	<p>どうなんですかね。総合教育会議は、市長の主催ですよ。</p>
小野村委員	<p>教育委員会が要望すれば、総合教育会議を持つことができると思うんですけども、その教育委員会というのは曖昧な表現だったので、それが分からないと思って見ていたんですが。私の記憶違いじゃなければ。</p>
教育総務課長	<p>その辺は、改めて確認させていただければと思います。</p>
教育長	<p>私としては、子どもの声を聞くということは、まず学校の中でしっかり聞くということが、一番だと思います。この前もお話したように、世の中で運動会を中止にするとか、修学旅行を中止にするとか、そういうのも、子どもたちの声も聞かなくうちに、学校だけで決めてしまっている地域がいっぱいあって、それはまずいだろうと思っています。</p> <p>校長会では、修学旅行について、保護者や子どもたちの声も反映するというので、リスクや実施する際の対策を説明した上で、どうでしょうかというアンケートをやり、判断していくということでした。</p> <p>とにかく、鈴木委員もよくおっしゃっていますけれども、学校の中で子どもたちの声に、しっかり耳を傾けていく姿勢が大事なのかなと思っています。ですから、学校の校長先生をはじめ、そういう体制づくりは、これから進めたいなと思っています。</p> <p>それから、教育委員会として、いろんな方々の御意見を伺うような話し合いの場というのは必要だろうと思うのですが、前にもお話したように、これも、何でもいいから集まってくださいと言うと、意見を言いたい方だけが集まってきてしまうのが危惧されるので、前に小野村委員ともお話したように、何かテーマを決めて議論ができるような、そんな場所に行ったりするといいのかなと思います。教育総務課では、このことについて今後、どのように検討していくか考えはありますか。</p>
教育総務課長	<p>現段階で、具体的な計画まではございませんが、考え方としては、教育長がおっしゃったような形を検討していきたいと思っています。集まっていたくというよりも、保護者の方とか、子どもがいる、例えばPTA総会などの機会を活用しながら、そういう機会を設けることができれば</p>

<p>教育長</p>	<p>いいのかなと考えております。</p> <p>委員さんの学校訪問については、今年度そろそろできると考えているのですか。そこまでは、まだですか。</p>
<p>教育局次長</p>	<p>昨年は、委員さんの御要望がございまして45校それぞれ分担していただいて、周っていただきました。</p> <p>今年度は、また新たにどうするか検討しましょうということで、委員さんの意見を聞きながら進めていきたいと思っています。昨年度はこちらで日程を決めて調整して、その日に行っていたんですけど、例えば、今度は委員さんから、この学校にいつ行きたいということであれば、それを、教育総務課で調整して行っていただくというやり方もあると思います。昨年度と同じように、こちらで、日時を学校と決めてしまっ、委員さんにお諮りするの、それとも委員さんの方から、この学校に行きたいから調整してほしいということで、こちらで日程調整だけするのか、その辺を委員さんの間で決めていただければと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>去年も行っていただいて、先生方がお話しできたのは有意義だったということですので、もし御希望があれば、先生全員とは、なかなか話せないと思いますけれども、そういう訪問の機会も設けられると思っています。</p> <p>その辺はいかがですか。柳瀬委員お願いします。</p>
<p>柳瀬委員</p>	<p>今は、まだ学校訪問しない方がいいんじゃないかと思います。非常に大変な状況が続いていると思いますので、私たちが行って話をしても、コロナ対策どうですかって言ったって、実際に今、大変な状況だと思うんですよね。なので、もう少し落ち着いてからでもいいかなと思います。どうでしょうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>倉田委員、お願いします。</p>
<p>倉田委員</p>	<p>私も賛成です。今の状況で学校訪問しても、なかなか学校でも対応しきれないし、大変だと思います。ある程度落ち着いてから訪問した方がいいと思います。</p> <p>その方がいろんな情報も聞けるし、こういう課題も見えてきたということで、一緒に話合う機会も設けられると思うので、取りあえず、今は</p>

<p>教育長</p>	<p>学校再開したばかりで、恐らく必死に学校は対応策を練ってやっているので、ある程度様子を見てからで、私はいいんじゃないかと思います。</p> <p>小野村委員お願いします。</p>
<p>小野村委員</p>	<p>私も、今のお二人の意見に基本的に賛成です。去年のように学校を見て回るという形は、もちろん、それはそれでとても大事なんですけど、もう少し時間を置いてからの方がいいのかなと思っています。</p> <p>しかし、今、目の前に、この後、夏休みはどう過ごすのかとか、根本的につくばでは、どのような学びを目指すのか、といった課題があります。今、流行語のように「学びを止めない」ということが言われています。もちろん学びは止めない方がいいんですけども、考えようによっては、一回止めた方がいいのかなという思いもあります。そのまま、ずるずる行ってしまって、結局今までの課題を見つめ直すということをしなくて、結果としてコンピュータが1人1台配られましたというだけになってしまうのは、良くないのではないかと思います。</p> <p>私は、現職時代にLL教室の活用に関して研究をしていました。実際、非常に効果があったわけですが、日本の学校では普及しなかった。なぜかという、まずメンテナンス費用やソフトウェア購入費用の不足といった問題がありました。そこで行われている授業はというと、単調なパターンプラクティスの繰り返し。ドリルですね。ヘッドホンなんか付けて勉強すると、子どもたちも初めは珍しくて、喜んで一生懸命やるんですけども、少したつと、もう飽きてしまうんですね。</p> <p>1人に1台PCを配りましたと言っても、やっている中身が同じであれば、今までのように、ドリル、知識偏重の学習というのは、改まらないと思うんです。今後の働き方が、どのように変わっていくかということとで考えた時には、もう言われたことをやっているだけでは、駄目だと思うんですね。この後、リモートワークになって、今までだったら会社に行って、課長、部長が見ているから仕事をしていたけれども、見ているからやっているというタイプの方は、家に帰ってしまうと、極端に仕事の能率が落ちてしまう。自分で一生懸命やっている人は、通勤時間まで仕事に回せると言って、非常に有効だという。リモートワークにした結果、しっかり仕事ができている人とそうでない人の結果が、はっきり出てきてしまっていると経済誌などにも書かれています。</p> <p>そうすると、子どもたちも、今までのように、宿題を出されてやっているタイプの子は、今後の時代の中では、なかなかやっていけなくなる</p>

のではないかなど。そういう時に、ただ単にPCを1人に1台配るということではなくて、子どもたちの学び方を変えるということ、しっかり考えていかなければいけない。先生たちも、なかなか職員室の中でそういう話をする機会ってないんじゃないかなと思うんです。例えばそういう経済界の人に入ってもらったりとかして、違う立場の人も交えて、今後の学びって何だろうということをお話する機会はあってもいいのかなど。

子どもたち自身にも、この後の時代、どういう学び方をすればいいんだと。授業が遅れているから、夏休みを減らしてというところ、減らしてぎゅっぎゅっとやろうと言っているところもあるけれど、つくば市はたぶん、県内では一番長い夏休みを取っているよと。その中で、君たちはどうするんだということ、子どもたち自身に投げかけて、子どもたちが、こんな学びをしようとかいうことが出てくるのが、大事なのかなと思います。

最後に、もう1点。NIE教育はどうなっていますかということをお話したんですけども、これも間際だったので、つくばでの取り組みは来月で結構ですが、例えば今、学校が再開して、教科書をもう1年分終わっちゃいましたという子がいれば、反面、休校期間中何もやっていなくて、全く分かっていませんという子もいる。そのギャップが生まれている中で、例えばの話、授業の中にNIE。新聞を活用した教育を入れると。そこで、子どもたちに、その新聞記事を読んで思ったことを話合わせる機会。NIEというと、ついつい新聞記事切り抜いて、紙に貼っておしまいというケースがとて多いんですが、そうじゃなくて、今、私たちはまさに歴史の転換期にいるわけですよね。間違いなく歴史の教科書に載るであろう時期に暮らしているわけで、その時期に、今、生きている子どもたちに、新聞を使って授業をしない。教科書の算数ドリル、漢字ドリルだけを、1日何回ずつやってきなさいとかという勉強をさせていくというのは、これは誰が考えても矛盾していると思うんです。そういう意味では、もちろん、それが必要な子にはそれをやらせてもらえばいいかもしれないけれども、そのNIEなり何なりを使うなりして、そういう場に大人が混ざる。私たちも、授業を見せていただくというよりは、子どもたちと一緒に考えるような機会、私たちが話すのではなくて、子どもたちの話を聞かせていただくというような機会ができたらなと思っています。

以上です。

教育長	<p>ありがとうございました。N I Eは今回、大丈夫ですか。</p>
学び推進課長	<p>現状を説明いたします。N I E教育ということで、新聞を活用した授業ですけれども、時々取り上げられるのは、社会でよく活用されている例はあるんですが、つくば市では、新聞を使いまして、つくばスタイル科、ここで自分の課題を解決していくために使ったり、あとは国語でも、新聞を書こうという単元がありますので、そういうところでも新聞は活用しています。</p> <p>特に、教員から危惧されているのは、最近、新聞を取っていない御家庭が増えて、だからこそ、学校で新聞を取り上げていかないと、子どもたちが新聞に触れる機会が本当になくなってしまわないだろうかという思いもありまして、なるべく積極的に新聞の活用ということは、今、考えてやっております。</p>
小野村委員	<p>つくばには可能性があると思っています。今までやってきていただいてきて、ある程度基礎はできていると思うんです。だからこそ、この時期に、9月始業とか、いろんな話が出た時に、子どもたちに「それをどう思う」と。つくばの子どもの意見として発信していくことができたなら、本当に素晴らしいなと思っていて、先生方に無理を強いてはいけなないので、そこは一番考えなければいけないところですが、ぜひ新聞活用ということも、電子版を使うということもあると思いますし、検討いただければなと思います。よろしく願いいたします。</p>
教育長	<p>ありがとうございました。</p> <p>私も、先生方一人一人にメッセージを4回ほど、これまでに送っているんですけれども、その中でも、ピンチをチャンスにということ、前にもお話ししましたが伝えました。課題をドリルとかそういうのではなくて、自分で考えてやれるような課題を出していきましょうということで、課題の考え方というのを、学校でやれることと、家でやることというのをしっかり考えながら、子どもたちに与えていきましょうと訴えてきました。</p> <p>先ほど申し上げたようにアンケートを教員もやったんですが、まだ全部まとまっていないんですけれども、自由記述を見たところ、何がためになったかと言ったら、子どもの主体性というか、子どもが自分から進んでできる力というのはすごいんだなということを感じたとか、それから、自分の課題づくりというのが、どうあるべきかということを考える</p>

ことができたとか、ほかの学校の先生方と課題について考えて、勉強になったとか、そういう自由記述がありました。

こちらで投げかけたことを、先生たちは受け止めてやろうとしてくれたんだなということ、すごく感じて、良かったかなと思いました。実現したかどうかというのは、たった1カ月ですから、難しいけれども、それが今後、教えから学びに向かっていくんだよねということについては、学校で非常に考えてくれているのではないかなと、嬉しく思ったところでは。

その後、通常登校になってからも2回出したんですけれども、1つは心の問題で、かなりダメージを受けている子もいるだろうからという話をしました。だけど、これも逆に、この時期だからこそ来られた子もいるという話なんです。ある学校の校長先生は、なぜ来られたのかを、みんなで考えようと。それが、今度、不登校の子に対する対応の、1つの手立てになるかもしれないよということ、投げかけてくれて、非常にいい視点で考えてくれているんだなと思いました。

それから、みどりのでオンラインの実証授業をした時も、オンラインでやったら、不登校の子がオンラインにはちゃんと自然に参加していたと。そこで自分の意見を書き込んで、参加していたということもあったので、本当に可能性を考えると、いろいろとまた広がるのかなと感じています。

とにかく「教えから学びへ」ということで、今あったように、ICTについてもどう使っていくかというのは、非常に大事な部分ですけれども、教えから学びへのものだよと。それから、みんなで意見を交換してやるものだよというところで、学校と家で、自分で学びたいことがシームレスに学べる、家にも1台あると、そういう考え方ができるのではないかと、今、先生方と共有しているところです。今、本当に委員さんが考えていることを、少しずつ学校の先生たちも、実践に向けて改善しようとしてくれているのではないかと、思っています。

鈴木委員、何かありますか。

鈴木委員

私もメールに書いたこと、いろいろ、細々とあるんですが、簡単に整理しながらお話しします。

まず1つ目は、夏休み中に学校で面談があるかと思うんですけれども、毎年20分くらいですかね。今年も学校から案内が来て、同じように20分とあったのですが、今の状況、今回の事情を考えれば、長くお話ししたい方もいらっしゃると思うので、そこら辺の配慮を学校には求めたい

	<p>と思います。</p> <p>2点目は、これも夏休み中ですけれども、学習相談のような機会をつくるように検討しているということでしたが、その学習相談というのは、例えば中学校だと、つくば未来塾のこととイコールという認識ですか。それとも、また別の機会を設けて、学習相談を先生がやったださるということですか。</p>
教育長	<p>学び推進課長、いいですか。</p>
学び推進課長	<p>つくば未来塾で考えている学校もありますし、全部の学校が、つくば未来塾をやるわけではないので、それ以外の学校は、学校独自で学習相談の機会ということで、今考えております。</p>
鈴木委員	<p>分かりました。つくば未来塾の申込みの紙も、学校から頂いたんですが、この夏休み、学校が学習相談も含めて、どのようにやっていくかという全貌が見えないと、未来塾に申し込んだ方がいいのか、どうなのかということが保護者としても分からないので、そこら辺を、早く保護者に説明していただきたいと思います。</p> <p>また、この未来塾については、以前もお話したことがあるんですが、参加する子どもたちが年々減ってきているということで、その分析がまだ済んでいないと、前任の朝賀課長がおっしゃっていましたが、だとすれば、今までと同じようなやり方では、子どもたち、これに行って良かったというのがないから減っているんだろうとは思っているので、何かやり方を工夫しなければいけないと思いますが、何かそこら辺の検討はされているのでしょうか。</p>
教育長	<p>生涯学習推進課長お願いします。</p>
生涯学習推進課長	<p>未来塾に関しましては、今年度は、従来の学校のやり方を踏襲させていただいて、実施をしていこうと考えております。</p> <p>ただし、今回は夏休みの期間も減ってきていますので、平日の普段の授業の中でも取り入れていただくような形にもなる可能性もあるので、学校によってはいろいろなパターンがあると考えております。そこで、各学校から意見を聴取しまして、考えていく必要があると思います。今年、新たに何かということは、今の時点では考えてはおりません。</p>

鈴木委員	<p>率直に申し上げますと、このコロナの状況で休校が長く続く中で、知り合いの親御さんなどとお話しますと、塾にお金をいっぱいかけるしかないのかなという声が聞こえてきます。そうではない子が、致し方なくここへ行くような状況では、とても良くないので、何かチューターの方が、どういう方がいらっしゃるのか分からないんですが、行って見てあんまりよく教えてもらえなかったとか、役に立たなかったと、ぜひならないような方向で検討していただければと思います。</p>
生涯学習推進課長	<p>チューターに関しましては、まず、筑波大と筑波学院大学が、まだ申込みがされていません。筑波大の授業の一環でインターンシップを取っている方と、教育実習を取っている方がプラスされ、今、その方を除いたとしても約 90 名のチューターで昨年度よりも多いです。一般の方、それから大学院の方が参加をしていただいております。昨年度の実績よりも 30 人ぐらい一般の方が多いんですけども、それプラス筑波大の教育実習生と、それからインターンシップを希望している方が 10～20 名程いらっしゃると思います。総勢 100 名から 120 名ぐらいの体制で実施はできると考えております。</p> <p>当然、先ほども委員がおっしゃったように、チューターの力量が非常に問われるというところ、我々も実感しているところでございまして、特に、比較的若いチューターさんがいると、中学生、興味を持って参加していただけるという傾向は昨年度もあったと聞いております。ですので、そのバランスをうまく調整を取りながら、ただ、若い人が即教えが上手であるかどうかというのも、また疑問ではありますので、地域で学校の先生経験者の方も、うまく取り混ぜながら、あとは当然、その学校の先生たちにも協力を得ながら、魅力あるものにはしていこうと考えております。</p>
教育長	<p>小野村委員お願いします。</p>
小野村委員	<p>今、私が知っているところだと、例えば Learning for All という団体がありますよね。最初に立ち上がった時に、何をやるんだろうと思って見ていたんですが、非常に感心して見ているのが、彼らの研修体制ですね。ただ学生を送るというのではなくて、非常にしっかり研修体制を整えていると。つくば市の場合、チューターさんを採用した後の研修機会とかはどうなっているんでしょうか。</p>

生涯学習推進課長	<p>私を知る限り、今回に関しては、研修はできない状況です。各学校に割り振りをさせていただいて、注意点等はお知らせをしますが、各学校において教務主任等が教え方などを指導して進めていく予定です。</p>
小野村委員	<p>例えば、実際物理的に可能な範囲ということで考えれば、研修用の 15 分ぐらいの動画を 2 本、3 本撮って、こういったところに気を付けましょうとか、そういった場に来る子たちの中には、学習障害の傾向のある子などもいるわけで、そういったものに対する基本的な知識、それがあるかどうかというだけでも、だいぶ違うと思います。</p> <p>つくば市のケースなのですが、この間、皆さん御存じでしょうか。皆さん、R という字はどうやって書きますか。今、文科省の教科書の書体では R の大文字というのは、R の斜めの部分の線が縦線のところからスタートしているんです。それが、少し前までの教科書の書体というのは、この途中から出ていたんです。書体が今、変わっているんです。</p> <p>アルファベットって、御存じかと思いますが、世界共通の書き順というのはないんです。書き順はどうでもいいんです。その子が書きやすい書き順でいいということなんですが、ただ、なぜか日本の教材は一般的に、例えば N の大文字だったら、両方の縦線から書きなさいと言っているんです。最後に斜め線を書きなさいというのが、今、文科省では言っていないんですけど、一般的に売られている教材のやり方なんです。</p> <p>この間、つくばの子ですけれども、N を両方の縦線から書いちゃうと、斜め線を逆にしてしまうんです。鏡文字になってしまうんです。それで、もちろんその子はバツとされます。私が、これ、N を一筆書きで書いた方が間違いが減るよと言ったところ、それをやると先生に怒られるということなんです。</p> <p>R という文字は、今、文科省は、この縦線から出しなさいとやっているのに、これはつくば市ではないですけれども、ネットでこの間話題になっていたのですが、それを先生が間違っていますから直しなさいとやっている。文科省がもう書体を変えているということを、その先生は気付いていないのかもしれませんが。ところが、その苦手な子は、そういうところを間違っていますよとやられてくる。N という字を、こういう書き順じゃなくちゃ駄目ですよということで、文字が分からないと言って、不登校になっているわけです。</p> <p>不登校になるぐらいならば、少なくとも一筆書きで書いてもいいよと言ってあげればいいところで、そういう基本的なちょっとしたところを</p>

<p>教育長</p>	<p>知っている、知らないだけで全然違ってくるので、そういうところは本当に簡単な動画を作っておくだけでも違うと思います。お忙しいのは分かっているので、そんな無理を言うつもりはないのですが、できたら御検討いただきたいなと思います。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>はい。わかりました。 鈴木委員お願いします。</p> <p>なるべく手短かに言います。</p> <p>先ほども、教育長からありましたが、臨時休校中のアンケートを私も保護者として答えました。アンケートを作るのって、本当に大変難しい作業だと思うんですけども、先ほどアイザックジャパンの方のアドバイスを受けて作ったとおっしゃられましたが、私はいつも、答える選択肢がなくて困って、このアンケートで私の意見は反映できないなというも思ってしまうんです。完璧なアンケートというのは作れるわけではないんですけども、ぜひプレ調査というんでしょうか。教育局の中にも保護者の立場の方はたくさんおられると思うので、ちょっとやっていただけてみて、選択肢がこれで足りるのかなくらいのことは、準備していただけるとありがたいと思います。</p> <p>あと、そのアンケートの中にICTの活用ということで、いくつか設問がありました。どういうものかという、休校中に子どもたちが利用したコンテンツというんでしょうか。チャレンジングスタディとか、先生方が総研のページにアップしてくれた動画を見たとか、つくばキッズとか、そういうのが並んでいたんですが、現実に子どもたちは、もっと違うことを、ネットを使って勉強している状況にあると私は思っていて、その設問も、これでは測れないなと思いました。どんどん自分が求めることを探す、例えば数学だったら因数分解の説明を、塾や予備校の先生など誰かうまくやっていないかなとネットで探したりして、この先生の説明だったら分かりそうだよなんていうことを、友達の中で共有して、どんどんそういうふうに使っていつているんです。なので、子どもたちの状況がそうであるということ、理解しておくことが大事だと思います。そういう方向に、もうどんどんICTの活用は伸びていくんだと思っています。</p> <p>それと、これも教育長からお話がありましたが、私も教育委員として、夏休みを3週間と提案したのは、教えから学びへの転換期だということで、子どもたちにも、そういう学びをしてほしい、先生方同士も、</p>

<p>教育長</p>	<p>どうかそういう議論をなさるなり、そういう方向へ行っていたきたい、そういう余裕を持つために3週間というふうに賛成しました。ですので、夏休みのこの課題の出し方というのは、今年とても注目するところだなと思っていて、今までのようなやり方ではなく、ぜひ第2波、第3波に備えるべく、学びへ向かうような課題を先生方で出していきたいと思っています。</p> <p>あと2つ。県立の高校入試ですが、県は早々と、日程も出題範囲も、今までと変わらないと発表なさいましたが、それがいいのかどうか、つくば市として、何か要望を出した方がいいのかということを教育長は何かお考えになっていますか。</p> <p>県も最初はそのように言ったけれども、かなり迷ってはいるようなんです。実際に子どもたちの負担になるのか、ならないのかというところもちろんあるし、省いたことによって、あまり学習が身に入らない状況になっても困るとか、いろいろと県は考えているようです。</p> <p>今後、対応については、方針をしっかりと、もう一回出してくれるということではあるんですけども、そういう状況を聞いたので、特にこちらが働き掛けなくても大丈夫なのかなと思っています。今、県は考えているのかなと思ってはいるんですけども、そういう意味では連携、連絡を密にしながら、私たちの考えと違う方向に行くようであれば、その時はみんなで要望しなくてはいけなかなと思います。それは校長先生方が一番心配していることなので、実際にそういうふうに進めたいなどはと思っています。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>最後に1つ。Withコロナ、あるいはAfterコロナ、新しい生活様式ということで、さまざまところで変化が見られているところですけども、教育長から校長会へということで、先ほどもありましたが、日傘を差したらどうかとか、服装のこととかいろいろと提案していただいて、うちの息子の様子を見てみると、体操服の登下校が今回許可になったので、もうとても脱ぎ着がしやすく、毎日、本人なりに、今日は長袖を着ていく、長ズボンを履いていく、半袖で行くと調節をしていて、こんなに快適だとは思わなかったと言っています。体操服の登下校がこれから続くかどうかということは、また別ですけども、これをいい機会と捉えて、合理的ではないのに続けていることを見直して、先生方も子どもたちも学校で気持ち良く、快適に過ごせるような方向に、ぜひ行っていただきたいと思います。</p>

<p>教育長</p>	<p>以上です。</p> <p>最初にも言ったように、子どもたちの声を先生たちがよく聞くということが、もちろん一番大事だと思うので、校長先生たちには、その子どもたちから訴えがあった時にはよく聞いて、それが正しいと思えば、もちろんそれを取り入れるし、そうではないときにはきちんと駄目な理由を言わなくてはいけないということを話しています。保護者の方々の声、教育委員会なんかに来る声を聞くと、何でこれ、学校にちゃんと本人が言ってくれないのかなというものがあります。私たちに言ってもらっても、結局学校に戻して、学校から対応しなくてはいけないということが結構あって、保護者、そして子どもが思っているということは、まず自分が話して解決しようとするのも大事なのではないかなと思っています。</p> <p>ですから、例えば、面談をもっと長くやってほしいという方は、そういうふうに言っていた方がいいのではないかと思いますし、そういうことを柔軟に学校も判断していきましょうよということは、校長先生にもう一回話したいと思いますので、ぜひ教育委員さんにそういう相談があった時にも、そういう旨をお話しただけであればありがたいなと思います。</p> <p>夏休みの家庭学習というのは、これも1つ、本当に大切なポイントだと私も思っています。夏休みのドリルみたいなものを買って、それをまた与えようとする学校があったりしたら、残念だなと思っているんですけども、校長先生たちにそういうところを話したいと思います。この前の先生方へのメッセージでは、家庭学習に主体的に取り組める子どもを育てましょうということを書きました。これは、いつも委員さんたちも言っているように、一律にトレーニングするための宿題というのは、効果があるのですかということ投げかけながら、自分で自分の学習を振り返って、足りないところに気が付いたり、もっと勉強したいことを自分で考えて勉強したりとか、そういうふうに先生たちが導いてやろうよということを、先生たちには話しているんですけども、ぜひこの夏休みの宿題がそうなるように、もう一回学校には投げたいと思います。</p> <p>倉田委員、そういうことで何かありますか。</p>
<p>倉田委員</p>	<p>私は、学校から一律に押し付けるのではなくて、考えさせる、そういう教育をさせないと、子どもたちは学ばないと思います。教えから学びというのはまさにそのことで、子どもたちがどう考えて自己判断してい</p>

<p>教育長</p>	<p>くかを学校から積極的に投げかけて、子どもたちに考えさせていくシステムとか、また教育の在り方ということで考えさせる、いいチャンスだと私は思っています。ぜひ、つくば市は子どもたちが判断して、こういう行動とか、こういう決定をしたのだということが、どこの学校も言えるような、そういうものにしていただければありがたいなと思っています。</p> <p>まさしくそうだと思いますので、校長先生方にもそのように伝えていきたいと思います。</p> <p>時間がそろそろなくなってしまうので、柳瀬委員からもありましたら、お願いします。</p>
<p>柳瀬委員</p>	<p>1点、コロナ不登校というか、コロナの件があって、学校に来られなくなった子どもたちがいるのではないかということと、逆に、今、教育長から非常に興味深いお話がありましたが、コロナの後、学校に行ける子どもがいます。オンラインに参加できる子もいたと。まだ、6月8日に登校が始まったばかりなので、なかなか数は、まだ出てこないのかもしれませんが、このコロナが心配で学校に行けないという子どもは何人いるんですか。</p>
<p>教育長</p>	<p>では、教育相談センター所長お願いします。</p>
<p>教育相談センター所長</p>	<p>5月21日の分散登校から、先日の6月15日まで、毎日不安による欠席がどれぐらいいるのかということで、学校に調査を出しております。</p> <p>全体的な傾向といたしましては、5月21日から6月5日の分散登校時は、全体の約0.5%の児童生徒が不安による欠席、あるいは保護者が不安なので登校させないという割合だったんですけども、6月8日から通常日課に戻りまして、その後も毎日不安による欠席ということで調査をかけましたが、通常登校になりましたら、今度は割合が減りまして、毎日取っている部分があるんですけども、例えば小学校でしたら、6月8日は全体の0.2%。中学校は同じく6月8日、0.08%。義務教育学校は0.05%ということで、全体としては普通の登校になって、その割合が減ってきております。全体的に平均しますと、大体0.2%前後で落ち着いていると見ております。</p> <p>その内訳なんですけれども、全部で6月8日から19日まで、10日間の調査をしましたところ、全部10日休んでしまった子も、もちろんいる</p>

のですが、例えば、今日は不安なんだけど、翌日は学校に行くという児童生徒さんもいらっしゃると思いますので、全体としては休んでしまう子もいますが、ところどころ不安で休んでいるというお子さんがほとんどでございます。

感染を心配して登校しなかった日が連続してしまった児童生徒というのは、本当に一部で、それ以外の子は、飛び飛びでお休みしていました。

そのお休みした子に対しての学習支援の方法なのですが、例えば、10日間海外にずっと行ってしまっているとか、あるいは兄弟でずっと同じように休んでいるとか、いろんな家庭によって状況がありますので、御家庭と連絡を取りながら、一番いい支援の在り方というのを担任が確認をしまして、電話であったり家庭訪問であったり、あるいはオンラインでメールのやりとりをしたりということで、こまめに対応をしてもらっています。

学校が始まっている中での支援となりますので、例えば学校が昼間あるときには、なかなか支援ができないわけなんですけれども、放課後に子どもたちが来て、そういうのに対応する場合もございますし、あるいはお休みしていたんだけど、登校した時に休み時間とか放課後を使って、足りない部分を補充したりとか、そういうことをして、できるだけ個別にしっかり対応するように、先生方がやっただけいてるよように考えております。

以上でございます。

柳瀬委員

ありがとうございます。元々持っている子どもたちの問題が、顕在化してくるという面もあると思うんです。コロナのことで、特にそういうのが出てくるというケースもあると思うんですが、パーセンテージとしては本当にどんどん下がってきているなと思うので、あとは個別対応をしっかりとやってほしいと思います。

先ほど、教育長の話で、非常に興味深かったのは、学校に行かなければいけないという状況で、学校に行けないというストレスもあると思うんです。今度、学校に行けないとなると、状況がまるで変わって、学校に行ってみたいとか、行きたいとか、行かねばならないというのが、これだけ長いと、心理的にも随分変わったのではないかなと思って気が付いたんですが、それで、話は飛躍しますけれども、やらなければいけないというふうに、子どもたちに思わせるのではなくて、やりたいという気持ちをいかに引き出すかと。

今までは、やらなければいけないことがたくさんありすぎて、いざとなつて「じゃあ君、何に興味あるの?」「得意科目何?」「何の勉強が楽しいの?」と言ったら、なかなか答えられないということが多かったと思うんです。

ずっと教育の量と質というのを、ここのところ考えているんですけども、その辺も高校入試でどれぐらい知識を持っているかを問うような入試ではなくて、もう少し考えなければいけない、質的に高い高校入試の、今までも言われてきましたけれども、質の高い質問をして、学習の量が足りる、足りないというところではない受験が、これから求められていると思うんですね。そういうところを、先ほどから、倉田委員とか皆さんもおっしゃられているんですけども、コロナを機会に、発想を変えていかなければいけないんです。

残念ながら、私自身考えると、教育とか学校教育で、音楽鑑賞もつとやった方がいいとか、いろいろと考えていたことが、もうことごとくできなくなってしまった。やりたいことが、今できないという状況で、じゃあ、それをどうするかというのは、まだ残念ながら答えが見つかっていないんです。オンラインでできることはあるけれども、オンラインでできないことがたくさんあったので、まだまだ今、どうすればいいんだろうと考えている途中なんですけれども、先生方も恐らくそういう試行錯誤を、今、ずっと続けていると思うんです。

また話が飛躍しますが、OECDの各国の子どもたちの学習能力テストですね、あれで常に日本はスキルとかタスク、それから理数系の能力が非常に高いんですけども、新しい知識を求めるとか、何かイノベーションするとか、やりたいことがあるというところは、もう全然低いんですよ。それをひっくり返していくための教育というのを、これから考えなければいけないのではないかと思います。

やりたいことを見つける。だけど、それが今できない。その葛藤の中で、じゃあどうしていこうかという、子どもたちも先生も、一般社会の我々も、そのジレンマを抱えて、どうすればいいんだという試行錯誤中ではないかと思います。

なので、答えがない。答えをみんな探しているんだよという、子どもたちも一緒に考えていこうよという、そういうスタンスが大事かなと思います。

話が飛躍してしまいましたけれども、コロナで大変な状況けれども、今まで元々抱えていた問題が、どんどん表面化してくるんだというところと、個別指導をちゃんとやっていくというところさえ押さえてお

<p>教育長</p>	<p>けばいいかなと思います。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。本当に今までの学校の在り方とか、教育の在り方とか、そういうものも根本からもう一回考え直しましょうという、そういうチャンスをいただいたんだと思います。ですから、今、柳瀬委員からありましたことも、先生たちと一緒に悩んでいければなと思っています。実際に先生方は、今、悩んでいると思います。</p> <p>何かほかに、ありましたらお願いします。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>それでは、以上を持ちまして、6月の定例の教育委員会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。</p>
------------	---

◎ 閉 会

午後3時35分閉会宣言